様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　6 月　7 日現在

機関番号：３５４０９
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009　～　2012
課題番号：２１５２０２５６
研究課題名（和文）アメリカ文学における人種と地域から見た階級表象の領域横断的研究

研究課題名（英文）　An Interdisciplinary Study of the Class Representations in Terms of the Race and Region in American Literature

研究代表者　田中　久男（TANAKA HISAO）
福山大学・人間文化学部・教授
研究者番号：３００３９１３５

研究成果の概要（和文）：アメリカ文学研究において、これまで十分光を当てて来られなかった階級表象を、本科学研究費補助金受託者が過去に考察してきた人種と地域という二つの有力なベクトルについての知見を基盤にして、領域横断的かつ包括的に究明した。

研究成果の概要（英文）：The present study has clarified rather comprehensively and successfully the class representations in American literature in terms of the interdisciplinary research of the two major topics in it, race and region.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
２０１１年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１２年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学、ヨーロッパ語系文学
キーワード：(A) 英米文学

研究開始当初の背景

(1) 平成 17 年度から 4 年間に遂行した「アメリカ文学におけるエスニシティ（ethnicity）の地政学的研究」は、それまで行ってきた「現代アメリカ文学におけるフォークナーの遺産の体系的研究」と「アメリカ文学における地方主義（regionalism）の体系的研究」により蓄積できた知見と成果を活用し、さらにF.ジェイムソン流の地政学という概念を文学研究に導入することにより、新しい研究方法の開拓を目指した。

(2) 合衆国の東部、南部、中西部、西部という伝統的な地域区分の枠組みは使用しながら、それらの地域間で形成されてきた社会文化的なヘゲモニー力学と、人種の序列化が社会的、経済的に構造化されてきた様態との研究を結合することにより、エスニシティとリージョンとの複合的な表象を、アメリカ文学において解明できるのではないかというの

が、本研究の当初の目論見であった。

２．研究の目的

(1) 階級意識に縛られているイギリス社会などとは違って、アメリカ社会では、階級がジェンダーや人種と同じく、社会的構築物であることは、実態として理解されているにも拘らず、人間の自由や平等が強調される建国の理念に幻惑されて、アメリカ文学研究においては十分考察されて来なかったという反省が、本研究の出発点である。

(2) この現状を是正するためには、合衆国の東部、南部、中西部、西部という伝統的な地域の特徴を顕著に保持し、人種的（この視点にジェンダーを包摂）にも多様なアメリカ社会を映し出す文学作品に見られる階級表象を考察する必要があると痛感した。それを人種とか地域という単独の視点から追究するのではなく、文化研究の成果も取り込んだ領域横断的、複合的な視点を活用することにより、アメリカ社会にも階級意識が構造的に支配している様相を、緻密に究明することを目指す。

３．研究の方法

(1) 平成 21 年度は、東部を中心として、アメリカ文学研究における一つの盲点となっているブラック・アイリッシュと呼ばれた民族集団に関し、カトリック教徒としての宗教的背景や、ワスプ（WASP）中心の社会文化の中で周縁化された歴史的経緯を、ニュー・イングランドを舞台としたユージン・オニールや、1920 年代ジャズ・エイジの寵児となった F.スコット・フィッツジェラルド等の考察によって、人種と地域から見た階級表象の実相を究明した。さらにニュー・イングランド作家ナサニエル・ホーソーンとイーディス・ウォートン、およびニューヨーク作家スティーヴン・クレインとバーナード・マラマッドを取り上げ、それぞれの階級表象の究明をした。

(2)平成 22 年度は、シャーウッド・アンダソンとシンクレア・ルイスを取り上げ、さらにシカゴという勃興都市を物語舞台として活躍し、ドイツ系でカトリック教の文化背景を持つ移民二世作家セオドア・ドライサーを追加して、彼らの共通基盤である中西部出身の同世代作家という観点から、階級表象を究明した。それから黒人共同体を描いたトニ・モリスンと、19 世紀後半の開拓者の生活を描写したウィラ・キャザーの作品における、人種と地域を絡めた階級表象を追究した。

(3) 平成 23 年度は、C. ヒュー・ホールマンの地政学的区分に従って、エレン・グラスゴーが出自のタイドウォーター、ウィリアム・フォークナーが代表するディープ・サウス、そしてトマス・ウルフ出身のピードモントという南部の三地域観は保持し、各作家の代表作において、階級表象の濃淡を比較検討した。さらにフロリダを舞台にしたゾラ・ニール・ハーストン、ディープ・サウス・グループのアースキン・コールドウェル、カーソン・マッカラーズ、フラナリー・オコナー、ニューオーリンズを舞台にしたケイト・ショパンやテネシー・ウィリアムズを加えて、南部における階級表象を考察した。

(4)平成 24 年度は、西部を中心として、新聞記者時代のマーク・トウェイン、カリフォルニアを舞台にしたフランク・ノリス、「ブラウン」で「カトリック教徒」のヒスパニック系アメリカ人たちをも描いた、多面的なジョン・スタインベック、および、マイノリティ集団の典型であるネイティヴ・アメリカン作

家レスリー・マーモン・シルコー、日系のトシオ・モリ、中国系のマキシーン・ホン・キングストンの作品における、土地と人種に絡まった階級表象を考察した。

４．研究成果

(1) 「オールド・ニューヨーク」という貴族的出自を背景に持つイーディス・ウォートンは、『歓楽の館』や『無垢の時代』において、彼女自身が社交界において経験し知悉していた、アメリカ上流社会の階級意識に絡まる道徳の硬直性や偽善を、深い心理的ドラマとして剔抉した。その一方で、『イーサン・フロム』というニューイングランドの寒村を舞台にした三角関係の物語は、土地の慣習と貧困に呪縛される人間の葛藤を描いたもので、その土地の慣習を貴族的な家系意識や歴史に広げて展開したのが、ホーソーンの『七破風の家』である。アイルランドの血を引くオニールは、『喪服の似合うエレクトラ』等において、家柄や遺伝的血筋と、夫婦間での氏族的な階級意識を絡ませて、人間の心理の内奥を究明しようとした。マラマッドは、『アシスタント』等において、ニューヨークでのユダヤ系ゆえの特異な貧窮生活の中に、民族的な選民思想により、社会の敗残者のように見えかねない人間の不幸や悲惨を、ペーソスを込めたユーモアに変える独特な想像力を示した。

(2) ドライサーは、『シスター・キャリー』の続編『ジェニー・ゲアハート』で、シャドー・ファミリーという擬似家族を使って、上流階級と下層階級との結びつきと、また階級意識と世間の視線に阻まれる結婚を、勃興都市シカゴを舞台に物語化した。時代感覚の鋭いアンテナとしてのドライサーという側面を、さらに広く深く究明する必要を感じて、その作業を続行中である。一方、彼とノーベル賞を競ったルイスは、ミネソタ州のスモールタウンを舞台にした『本町通り』で、階級意識の強いワスプが支配する様相を、北欧移民家族の悲惨と対比することで、精緻に描いた。オハイオ州の鉄鋼町を舞台に黒人共同体を描いたトニ・モリスンは、黒い肌の濃淡による差別の実体を、『ジャズ』や『パラダイス』等で、カラーラインや階級をめぐる問題として形象化した。

(3) フロリダを舞台にしたゾラ・ニール・ハーストンの文学は、南部文学のみならず、黒人文学においても、ポリフォニックな声の重要性を主張したという意味で、貴重な存在であることを再認識した。フォークナーが描く南部社会における貴族的な階級、自営農民、貧乏白人、黒人という階層差は、奴隷制度と農本主義という南部の特異な経済構造が歴史的に産み落とした負の遺産として、南部という地域を人種と階級意識と絡めて考察する際には、有効な視座であり続ける。ショパンの『目覚め』は、クレオール文化における人種的な背景や階級構造を分析する格好の作品であり、ウィリアムズの『欲望という名の電車』も、南部のプランテーションと絡まる貴族意識や、ニューオーリンズの下町の人種のるつぼの断層面を描いた作品として、さらに究明を要請するものである。

(4) 「ブラウン」で「カトリック教徒」のヒスパニック系アメリカ人を導入したジョン・スタインベックの『気まぐれバス』や『楽しい木曜日』、さらには『トーティーヤ台地』等は、エスニシティや階級意識を、カリフォルニア独特の歴史的背景を基に考察する必要を再認識し、その作業を続行中。この問題に密接に関連しているのが、今回研究対象と

したネイティヴ・アメリカン作家シルコー、日系のトシオ・モリ、および、中国系のキングストンの文学である。シルコーの郷里ニュー・メキシコを舞台にした、キャザーの歴史小説『大司教に死は来る』にも宗教界の階層意識が描き込まれていて、こうした作品も研究課題の射程に入れる必要を痛感し、研究成果を補強中。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

① 田中久男、「トシオ・モリ文学の考察とJapanese-Americanism の提唱」『AALA Journal』No.18.（2012）36-54。査読有
② 田中久男、「「テンションの波形――文学理論のダイナミズムの中心点」『英詩評論』第 28 号（2012）2-14。査読有
③ 田中久男、「*The House of the Seven Gables* における Nathaniel Hawthorne の歴史感覚とニューイングランド表象」『福山大学人間文化学部紀要』第12巻（2012）43-57。査読無
④ 田中久男、「『アーサー王宮廷のコネティカット・ヤンキー』の仕掛けと寓意」『マーク・トウェイン　研究と批評』 第10号（2011）96-106。査読有
⑤ 田中久男、「フォークナー文学における＜父殺し＞―伝記とテクストからの分析」『福山大学人間文化学部紀要』第10巻（2010）47-60。査読無
⑥ 田中久男、「『エミリーへの薔薇』の歴史と寓意――臨終場面に見えるノーブレス・オブリージ」、田中久男監修・亀井俊介・平石貴樹編著、『アメリカ文学研究のニュー・フロンティア』、（南雲堂、2009）264-278。査読無

〔学会発表〕（計７件）

① 田中久男、特別講演「トシオ・モリ文学とその時空の背景幕」アジア系アメリカ文学会第 20 回フォーラム（松山大学）、2012 年 9 月 16 日。
② 田中久男、特別講演「アメリカ文学研究としてのリージョナリズム――フォークナー、ホーソーン、ルイス、モリ」日本アメリカ文学会中部支部第 29 回大会（愛知淑徳大学星が岡キャンパス）、2012 年４月 22 日。
③ 田中久男、特別講演「≪テンション≫の波形――文学理論のダイナミズムの中心点」中国四国イギリス・ロマン派学会第 33 回大会（広島：白島会館）、2011 年 6 月 4 日。
④ 田中久男、特別講演「トウェインの『アーサー王宮廷のコネティカット・ヤンキー』における仕掛けと寓意――パリンプセストとカーニヴァルの共演」中・四国アメリカ学会第 38 回大会（広島大学千田町キャンパス）、2010 年 11 月 27 日。
⑤ 田中久男、特別講演「フォークナーのいるアメリカ文学の風景―T. S. エリオット的視点より」日本英文学会中国四国支部第 63 回大会（四国大学）、2010 年 10 月 25 日。
⑥ 田中久男、特別講演「スタインベックの想像力のかたちとその文学表象」日本ジョン・スタインベック協会第 34 回全国大会（京都府立大学）、2010 年 5 月 31 日。
⑦ 田中久男、「フォークナー文学における≪父殺し≫のテーマ」、シンポジアム「今、なぜフォークナーか？」日本アメリカ文学会東京支部（慶応大学）、2009 年 6 月 27 日。司会・講師：藤平育子、講師：田中久男、諏訪部浩一、田村理香。

〔図書〕（計１件）

田中久男、監修・亀井俊介・平石貴樹編著『アメリカ文学研究のニュー・フロンティア』（南雲堂、2009）。序文「はじめに　文学研究の新しいあり方」1-8。

６．研究組織

(1)研究代表者

田中　久男（TANAKA HISAO）
福山大学・人間文化学部・教授
研究者番号：３００３９１３５